

野登瀬B遺跡現地説明会資料

～津市美杉町下多気（野登瀬地区）～

2011年7月9日

三重県埋蔵文化財センター

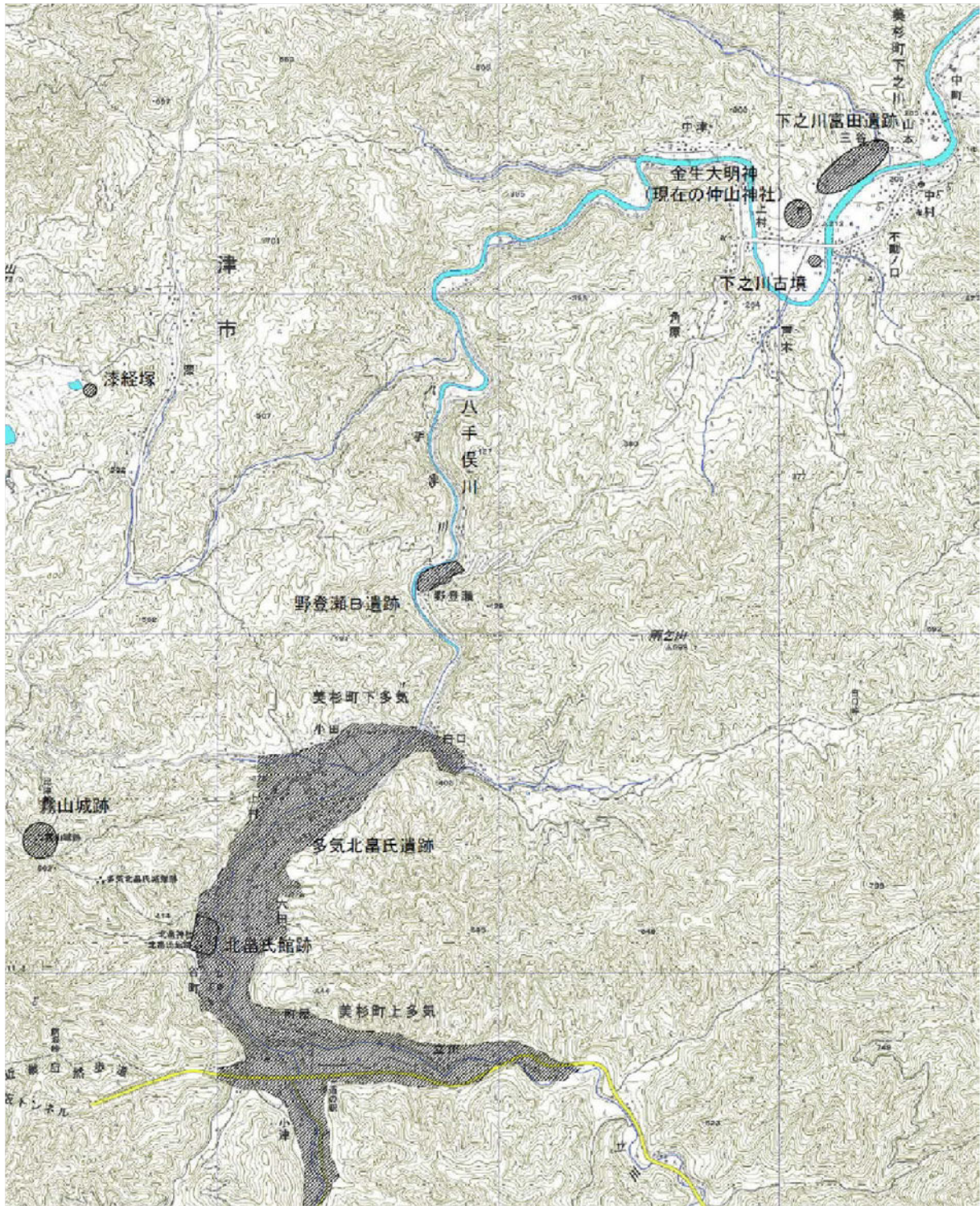


【はじめに】

野登瀬B遺跡は、雲出川はてまたがわの支流・八手俣川上流部にある遺跡です。野登瀬地区は、行政上は津市美杉町下多気しもたけにあたりますが、地形のうえでは、下流の下之川地区、上流の多気地区じものかわに挟まれた小さな谷間にあたります。

野登瀬地区の上流にある多気地区は、室町戦国時代に北畠氏きたばたけ（伊勢国司・戦国大名）の本拠地となった場所です。また、下流の下之川地区は、鎌倉時代から室町時代にかけての宗教文化が花開いた地で、金生大明神こんせいだいみょうじん（現在の仲山神社）を核に多くの寺院が建立されていました。さらに、多気北部の漆地区うるしには、平安時代末期（西暦1150年頃）の経塚（漆経塚）があり、湖州鏡こしゅうきょうや青白磁などの中国産優品を含む良好な文物が出土しています。このように、多気・下之川地区には注目できる重要な遺跡が多数見られます。そして、これらの地域をつなぐ位置にある野登瀬地区が大変重要な場所であることも見て取れるのです。

それでは、野登瀬B遺跡の発掘調査でわかったことを見ていきましょう。



野登瀬B遺跡付近の主要遺跡（国土地理院 1/25,000『伊勢奥津』を使用）

【縄文土器と石器～野登瀬地区のあけぼの～】

今回の発掘調査で注目できる成果のひとつに、縄文時代の土器と石器が見つかったことが挙げられます。土器・石器ともに小さな破片なのですが、これらの道具が見つかったことで、野登瀬地区が縄文時代後期（今から約 3,500 年前）から拓けていたことがわかります。石器には、「石錐」といって、動物や樹木の皮に穴を開けるための道具もあります。

縄文時代後期の遺跡は、下之川地区から多気地区にかけて点々と見られます。野登瀬地区でこの時期の土器・石器が見つかったことで、この時期の人々が八手俣川沿いに広く活

動していたことがわかります。

【古墳時代後期の土器】

縄文時代の次に古いものには、古墳時代後期（西暦 600 年頃）の土器があります。土師器かめの甕で、煮炊きに使うものです。たった1点しか出ていませんが、大変重要なものです。というのも、下之川地区では古墳時代後期の集落跡（下之川富田遺跡）や古墳（下之川古墳）が見つっていますが、たくさんの発掘調査地がある多気地区では、この時期の土器は今のところ見つかりません。つまり、古墳時代の人々は縄文時代よりも狭い活動範囲であったと考えられるのです。

【室町戦国時代の屋敷跡】

今回の発掘調査で最も濃厚に確認されたのが室町戦国時代の遺構と遺物です。西暦 1550 年頃から 1600 年頃が中心です。

遺構として見つかったのは、2箇所の屋敷跡です。屋敷には、建物跡とゴミ捨て穴（土坑）が見られます。建物は、「ほったてばしらたてもの掘立柱建物」といって、地面に開けた穴に柱を直接埋めて建てるスタイルのものです。中には「根石」といって、柱が地面に沈み込むのを防ぐための石を敷いた柱穴もあります。

ゴミ捨て穴は直径 1 m 前後、深さ 50 cm 前後の丸い穴で、建物の周囲にたくさん掘られています。建物の周りに円形のゴミ捨て穴をたくさん掘るというスタイルは、美杉町竹原地区（瀬木遺跡）や多気地区（多気北畠氏遺跡どいおき土井沖地区・瀬古地区）などで見られ、雲出川上流地域の室町戦国時代を特徴付けるものです。



野登瀬B遺跡調査区平面図

【室町戦国時代の出土品】

見つかった遺物には、室町時代の土師器・陶器・磁器などの土器類のほか、金属製品があります。土師器は多気地区でも多く見ついている南伊勢地域で作られたものです。陶器には常滑（知多半島）製品のほか、少量ですが伊賀信楽製品もあります。土坑のひとつからは、常滑（知多半島）産の練鉢がほぼ完全なかたちで見つかりました。磁器には、少量ですが中国からの輸入品である青磁があります。

金属製品では、火打ち鎌や鑿（たがね）のほか、釘が多く見ついています。また、これらの製品を作るときにできた鉄かす（鉄滓）もあり、この地で鍛冶がなされていたことを示しています。

【おわりに】

野登瀬B遺跡の発掘調査は、県道の改良工事に伴って実施したものです。発掘調査面積も、決して大きくはありません。しかし、野登瀬の歴史が縄文時代にまでさかのぼること、古墳時代にも人々の活動があったこと、室町戦国時代には2つ以上の屋敷地があったことなど、予想以上の成果がありました。野登瀬B遺跡を最も特徴付ける室町戦国時代の屋敷跡は、野登瀬地区が多気（北畠氏の拠点）の喉元にあたる地であることから、北畠氏とも関係があると考えられます。

野登瀬地区は、山と谷に囲まれた小さな集落です。しかし、この地に刻まれた人々の足跡は太古の昔にまでさかのぼることがわかりました。発掘調査の現地から、山間の集落に刻まれた歴史に思いを馳せていただけたらと思います。



縄文土器と石錐



根石のある柱穴



常滑産練鉢の出土状況

調査遺跡名	野登瀬B遺跡
所在地	三重県津市美杉町下多気（野登瀬地区）
原因事業名	平成23年度主要地方道一志美杉線県単道路改良事業
調査実施機関	三重県埋蔵文化財センター